

【社会人(デビュー期)】 その就活、大丈夫ですか？ ～裏返して見直す親子関係～

未経験者の新卒を企業が一括採用する方法は「日本の社会構造」と言われています。そして日本で行われている就職活動は、世界的に見て特別なものです。

最近、企業の人事採用担当者と話す機会があり、お話を伺いました。その方は、「最近の学生は、自分の考えを伝えることが苦手な人が多いのかな？」と思うことがあるそうです。採用面接で、志望動機を尋ねるとマニュアル本の通りに話しているから、視点を変えて質問すると、突然答えられなくなる。おそらく、日頃から分からないことは簡単にネットで検索できるから自分で考えることが身についていないのではないかと。でも、それ以上に驚くことは、志望動機を尋ねたとき「この会社に入れたら、母が喜ぶからです」と、堂々と答える大学生が少なくないことだそうです。

この話を聞いて、大学生になっても「つ離れ」が出来ていない若者がいることに驚いてしまいました。「つ離れ」とは、江戸時代に遡ります。日本では、数を数えるときに、「ひとつ」「ふたつ」…「やっつ」「ここのつ」「とう」と数えることがありますね。年齢もこのように数えます。そして、十（とう）になると「つ」がなくなる。つまり、江戸時代は10歳になると丁稚奉公に出る、社会人として家から出て働きに出ていたわけです。

江戸時代から親子の関係がずいぶん変わって、現代は、子供が20歳で成人しても、親の顔色を見ながら親の喜ぶことを考えて行動し、就職活動でもその考え方が変わらないので、志望動機にもその思いが出てしまう人があるのだと思います。これを裏返して見ると、きっと親の側も、子供との距離が年齢相応に取れていないのではないのでしょうか。

私たちは、子供との距離を測る目安として「3つの期」に注目しています。

1つ目は「誕生期」。生まれてから学齢になるまでは、親が手を掛け、目を掛け、声を掛け、親子がとても密接に関わる時期です。2つ目は「教育期」。子供は学校で勉強し、集団生活をする中で協調性を学びます。また、大人になる階段を上る思春期を迎える時期です。この時期は、あまり手をかけると徐々に子供からうざがられるようになるので、目を掛けて、声をかける程度とし、中学卒業・高校入学の頃には、母親は手を離す時期です。そして3つ目が「社会人デビュー期」、子供はいよいよ社会に出る準備が出来ているかどうか、そして親は子供との関係が声をかける程度の関わり方になっているか確認して欲しいところです。

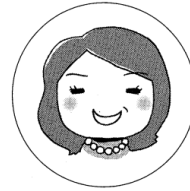
「社会人デビュー期」になっても、手を掛けていませんか？「ハンカチ持った？」「定期持った？」「お財布持った？」「スマホ持った？」など、まるで小学生に持ち物を準備させるように声掛けしていませんか？自分で何でも準備できるように見守ってあげてください。必要な時に声をかける。手を離し、目も離し、自ら行動できると信じてあげてください。

きっと大丈夫です、心は繋がっていますから。

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営: 認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和 2 年(2020 年)3 月現在のものです。



藤田さん



森さん

東京都教育庁「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」ホームページ